

第 5 回御嶽山噴火に伴う木曽川上流域水質保全対策検討会

検討会結果概要

1. 木曽川水質状況の報告

- ・御嶽山噴火後から実施している水質調査によれば、木曽川本川では水質上の大きな問題は発生していない。
- ・5月18日の降雨後に木曽川及び飛騨川において白濁を確認したが、一時的なもので水質に大きな影響はなかった。

2. 三尾発電所の発電機性能確認試験に伴う放流試験結果について

- ・濁度については、三尾発電所放水口において、試験放流開始の初期段階、放流量変化時において、一時的に濁度が高くなる状況が見られたが、時間の経過とともに急速に低減し、最大取水量30.9m³/sにおいても、濁度30以下程度で放流が可能となった。
また、水資源機構が計測(5/7)した深度方向の濁度計測結果から推測すると、貯水池底部の高濃度となっている水深はあまり変化していないが、取水口前面に設置した角落しの天端標高(EL828m)付近の濁度24.6とほぼ同様な濁度が放水口でも計測されている。また、放流量が変動しても濁度の大きな変化は見られていない。これらは、角落しにより、高濁度の沈降物質が遮られたことによる効果と考えられる。
- ・放流試験に伴う下流河川に与える影響は少ないと考えられるため通常運転に移行している。
- ・今後とも木曽ダム取水口及び三尾発電所放水口の水質監視をしながら通常運転を行う。水質監視結果については、地整HPを通じて公表する。

3. 牧尾ダム利水放流設備の点検放流について

- ・発電所機器の故障や送電線障害等により、発電放流管による放流ができない場合への備えとして、利水放流設備からの放流を適宜行うことを確認した。
- ・実施時期については、放流初期に濁度が上昇することが考えられることから、洪水吐ゲートからの放流による希釈効果が期待できる出水時(概ね100m³/s放流時)とする。
- ・なお点検放流時は、牧尾ダム直下流での水質監視を行い、必要に応じ減量又は中止などの対応を実施する。

以 上